

こどもふくどくほん
子供副読本
 おおてがわかいしゅう
大手川改修



みやづ れきし しぜん い
 ー 宮津の歴史と自然を生かした

あんしん こころやす みず べ
 安心で心安らぐ水辺づくり ー



かりゅうぶ
 下流部の
 せいび
 整備イメージ



ちゅうりゅうぶ せいび
 中流部の整備イメージ



おおてがわ だいきくせん
 大手川クリーンアップ大作戦



おおてがわみずべ がっこう
 大手川水辺の学校

平成20年6月12日 しよはんさくせい 初版作成



きょうとふたんごどぼくじむしよ
京都府丹後土木事務所

はじめに

おおてがわ へいせい ねん たいふう ごう とう こ じんか しんすいひがい
大手川では、平成16年の台風23号により2,400棟を超える人家の浸水被害など、

たいへんおお すいがい
大変大きな水害がありました。

そのため、二度とこのような大規模な水害が起きないように、本格的な改修事業を

おこな
行うこととなりました。

ここでは、丹後土木事務所が大手川で進めている改修工事についてお話をします。

大手川ってどんな川？

おおてがわ きょうとふ かんり にきゅうかせん きょうとふほくぶ みやづし ちゅうしん なが
大手川は、京都府が管理する二級河川で、京都府北部の宮津市の中心を流れます。

りゅういきめんせき へいほう りゅうろえんちょう かせん
流域面積は、27.6平方キロメートル、流路延長は10キロメートルの河川です。

流域面積とは、分水界によって囲まれる区域の面積のことをいいます。集水面積と同じ意味に使われることもあります。くわしくは6ページをご覧ください。

おおてがわ みやづしやくしょ よこ なが ふる みやづじょう ほり はたら
大手川は宮津市役所のすぐ横を流れています。古くは宮津城のお堀としての働き
がありました。現在は散策をしたり釣りをしたりする水辺として人々に親しまれていま
す。

きたきんきたん こてつどう みやづえき お とほ ふんていど おおてがわ とうちやく
北近畿タンゴ鉄道(KTR)宮津駅を降りて、徒歩5分程度で大手川に到着します。



台風23号での大きな被害

京都府北部に大変大きな被害をもたらした平成16年10月の台風23号では、

大手川も氾濫して、大変大きな浸水被害となりました。

家屋の床上・床下浸水が2,400棟を超える浸水被害が発生したのです。



宮津小学校のグラウンドも洪水で浸かってしまい、しばらく使うことができませんでした

浸水面積は、約170ヘクタールです。これは東京ドーム何個分になるでしょうか？
答えは約36個分です。

上の写真で赤色の線で囲んだ部分が浸水した範囲です。

家の中の畳まで浸かったり、車が浸水して立ち往生するなどもあり、市民生活がマヒしてしまうような大変な状況でした。



宮津高校前の府道で浸水した自動車

水に浸かってしまったものなどの処分にがんばる人々



おおあめ べんきょう 大雨について勉強しましょう！

うりょう し 雨量について知っておこう

あめ つよ あらわ 雨の強さを表すときによく「〇〇ミリ以上の雨量」と表現します。円柱型の容器を

そと だ じかんご 外に出して、1時間後にたまった水の深さが「〇〇ミリの雨」です。

1時間の雨量 <small>じかん うりょう</small>	イメージ	きしょうよほうようご 気象予報用語	ひと <small>えいきょう</small> 人への影響
10～20mm未満 <small>みまん</small>	 10～20mm未満 やや強い雨	つよ <small>あめ</small> やや強い雨	じめん <small>かえ</small> <small>あしもと</small> 地面からのはね返りで足元がぬれる
20～30mm未満 <small>みまん</small>	 20～30mm未満 強い雨	つよ <small>あめ</small> 強い雨	かさ 傘をさしてもぬれる
30～50mm未満 <small>みまん</small>	 30～50mm未満 激しい雨	はげ <small>あめ</small> 激しい雨	どうろ <small>かわ</small> 道路が川のようになる
50～80mm未満 <small>みまん</small>	 50～80mm未満 非常に激しい雨	ひじょう <small>はげ</small> <small>あめ</small> 非常に激しい雨	たき 滝のように降る
80mm以上 <small>いじょう</small>	 80mm以上 猛烈な雨	もうれつ <small>あめ</small> 猛烈な雨	いきぐる <small>あっぱくかん</small> 息苦しくなるような圧迫感がある

おおあめ とき 大雨！その時どうする？

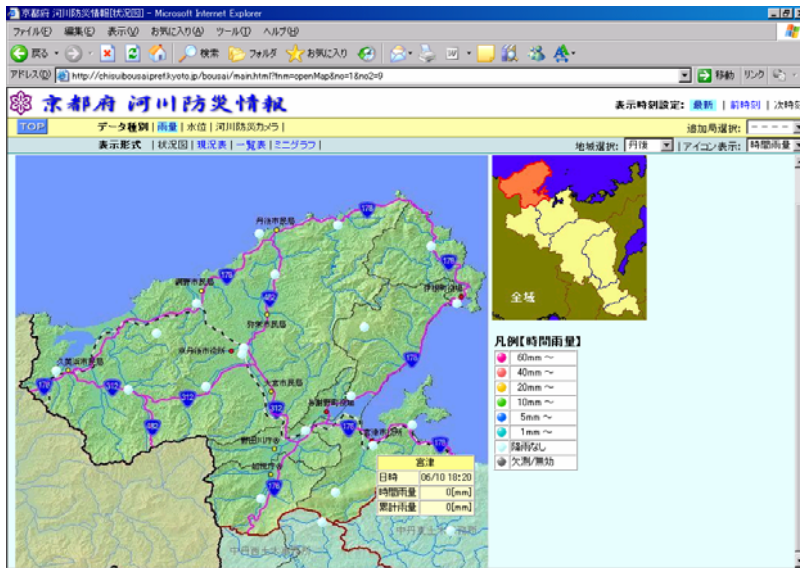
次のようなことに気をつけることが大切です。

- テレビ・ラジオなどで最新の情報 さいしん じょうほう しら せいかく じょうきょう を調べて正確な状況をつかむ。
- なるべく外に出ないようにして、特に川やがけには近づかない。
- 浸水 しんすい が始 はじ まってから逃 に げると危険 きげん です！役場 やくば からの避難 ひなん 情報 じょうほう に従 したが い、早 はや めの避難 ひなん をする。
- 移動 いどうちゅう 中は携帯 けいたいでんわ 電話 でんわ やラジオ、道路 どうろ 情報 じょうほう 板 ばん など避難 ひなん する経路 けいろ の安全 あんぜん 確認 かくにん をする。

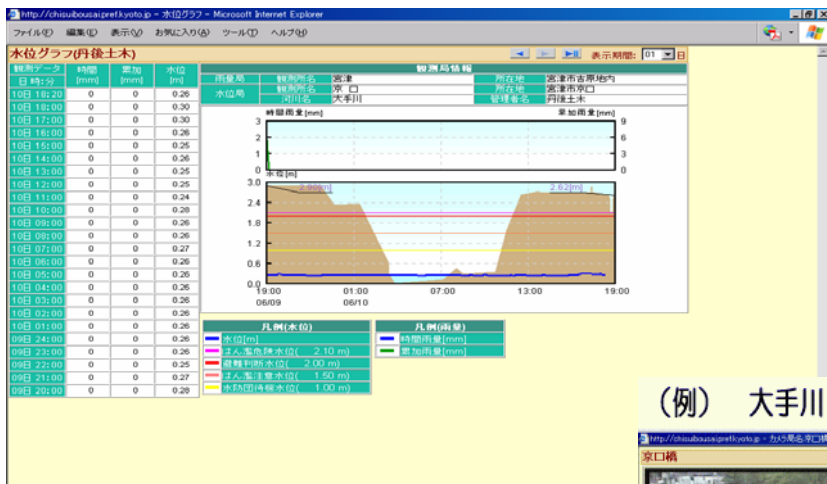
うりょう すいい じょうほう わ
雨量・水位の情報はインターネットでわかります

きょうとふ うりょう すいい じょうほう きょうとふ かせんぼうさいじょうほう ていきょう
 京都府では雨量や水位の情報を京都府ホームページ「河川防災情報」で提供して
 います。(河川防災情報システム URL <http://chisuibousai.pref.kyoto.jp/index.html>)

おも かせん いま ようす かせんぼうさい み とうぜん おおてがわ みる
 また、主な河川の今の様子を河川防災カメラで見ることができます。当然、大手川も見る
 ことができます。



うりょう ちず ひょう み
 雨量を地図や表で見ることが
 できます



すいい ひょう み
 水位をグラフや表で見
 ことができます

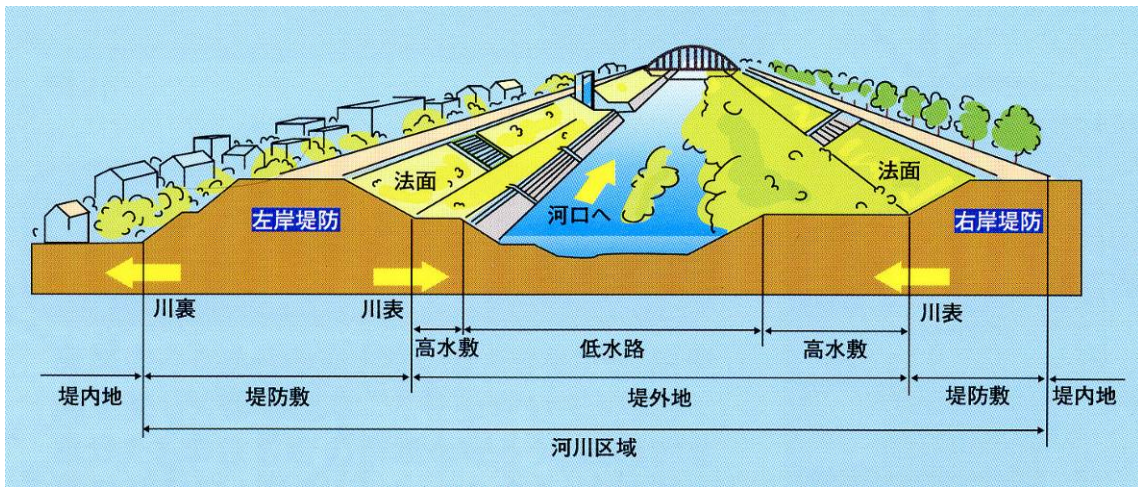
(例) 大手川 (京口橋) の河川防災カメラ



おも かせん げんざい ようす
 主な河川について、現在の様子
 をみることができます。
 おおよそ30秒に一度更新さ
 れます。

かわ ことば 川の言葉について

ここで、川についてのいろいろな言葉を知っておきましょう。



かわ うがん さがん 川の右岸・左岸とは

川は上流から下流に向かって見て、右側を「右岸」といい、左側を「左岸」といいます。宮津小学校は大手川の右岸側に、宮津市役所は左岸側にあります。

こうすいじき 高水敷とは

普段の水位より高いところにある川の敷地のことをいいます。普段は様々な活動に利用され、植生が茂ったりしていますが、大きな洪水の時は水に浸かります。

大手川では、下流の湊橋あたりでヨシが生えているところが高水敷です。

小さな川では高水敷のない河川が多くあります。

ていすいろ ていすいじき 低水路（低水敷）

普段水が流れる部分です。

ていないち ていがいち 堤内地・堤外地

堤内地とは、堤防によって洪水から守られている土地をいいます。家が建っている場所は、堤内地です。水の流れている川側の土地が堤外地です。

流域面積とは

一つの川が集まる範囲の全地域を流域といい、その大きさを流域面積といいます。

支川には、それぞれ支川ごとに流域があり、それらが集まって全流域を形作ります。

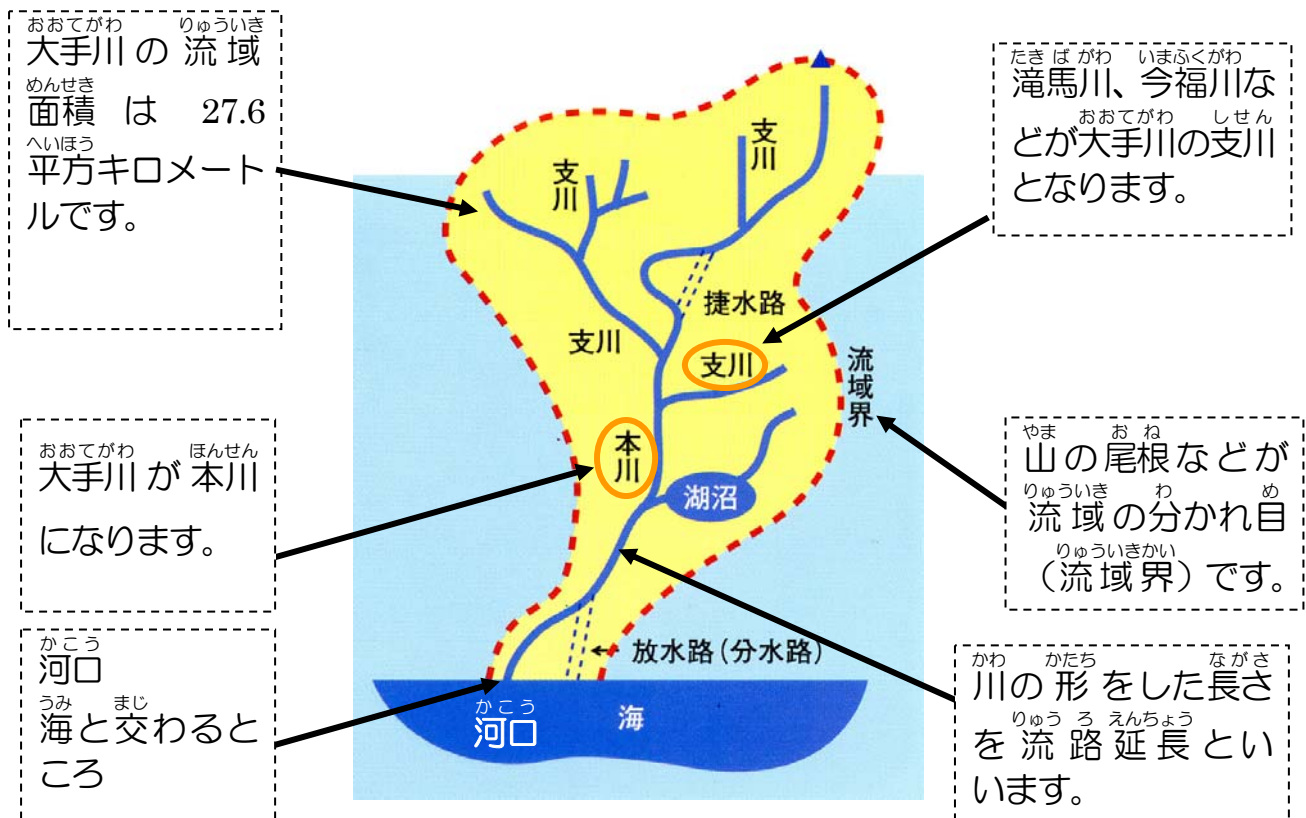
全ての支川を含めた全流域のことを水系ともいいます。

本川・支川とは

水系の主流となって河口に向かう木の幹に当たる流れを本川（または本流）といいます。

枝に当たる流れを支川（支流）といいます。

大手川についていうと、大手川が本川で、滝馬川、今福川などが支川となります。



河川には、一級河川と二級河川があります。一級河川は、私たちの暮らしを守り、産業を発展させるうえで特に重要な河川のうち、国が管理している河川です。二級河川は、一級水系以外の比較的流域面積が小さい水系（二級水系）の河川のうち、都道府県が管理している河川です。

なぜ大手川は大きな洪水の被害があったのでしょうか

では、なぜ大手川で大きな水害があったのでしょうか？

その原因としては、次のようなことがあったと考えられます。

まず、大きな理由としては予測できないほどのたくさんの雨が降ったこと。

次に、流域面積の割合に対して必要な洪水を流せる川ではなかった、つまりは川幅が狭かったということです。

この他には、橋に橋脚があり、ゴミなどが引っかかりやすく、その結果、水の流

が悪くなってしまったことがあります。



京口橋に大量のゴミが引っかかった様子



普段の京口橋の様子



蛇行している大手川です。

蛇行とは、ヘビが動くように曲がりくねっていることです。

また、宮津市の街が海に近く、土地が低く、潮位（海面の高さ）の影響を受けやすいこと、川が蛇行していてスムーズに流れにくいことなどがあります。

河川改修は単純ではありません

川の改修は川幅を拡げて、コンクリート護岸をつくり、急な河川にすればいいだけというわけにはいきません。

まず、川を拡げるとしても、川の横にある建物の移転が必要になったり、土地の買収が必要になったりします。買収に費用がかかるだけでなく、そこに住んでいる人の生活に関わるわけです。住んでいる人の理解と協力がないとできません。

また、コンクリートの護岸では周辺の景色に合わないことがあり、何よりも魚などの生物が住みにくい川になってしまいます。

急な勾配の河川にすると川底が掘れやすく、その結果、護岸などの施設が壊れるなどの問題も生まれます。

そのため、河川の改修を行うときは、このようなことを総合的に考えながら進める必要があります。また、動植物や環境への気配りも忘れてはいけません。

河川の改修は一度行くと簡単にやり直すことができないため、慎重に考えて行う

必要があるのです。

護岸とは、川岸・海岸の堤防などを補強して、洪水や高潮などの水害から守るための施設のことをいいます。コンクリートブロックで作っているもの、石積みで作っているものなど、いろいろな種類があります。

大手川の特長

大手川は、北部最大の河川「由良川」とは違って、流路延長が短く、地形勾配が急であることから、雨が一番強く降った時点から見て、短い時間で洪水の水位が一番高くなりなります。

大きな河川では、大雨が降ってから2時間くらいで最大の洪水となりますが、大手川のような小さな河川では短い時間で最大となります。

ことがないよう、本格的な改修が必要となりました。

そのため、国土交通省と協議を行い、「河川激甚災害対策特別緊急事業」という事業

で本格的な改修を進めることになりました。京都府では2番目の事業です。

この大手川での事業は、120億円という大変多くの事業費を使い、5年間という

短期間で約5キロメートルの区間を集中的に改修を行うというものです。

改修の規模

それでは、どのような規模の改修を行うのでしょうか？

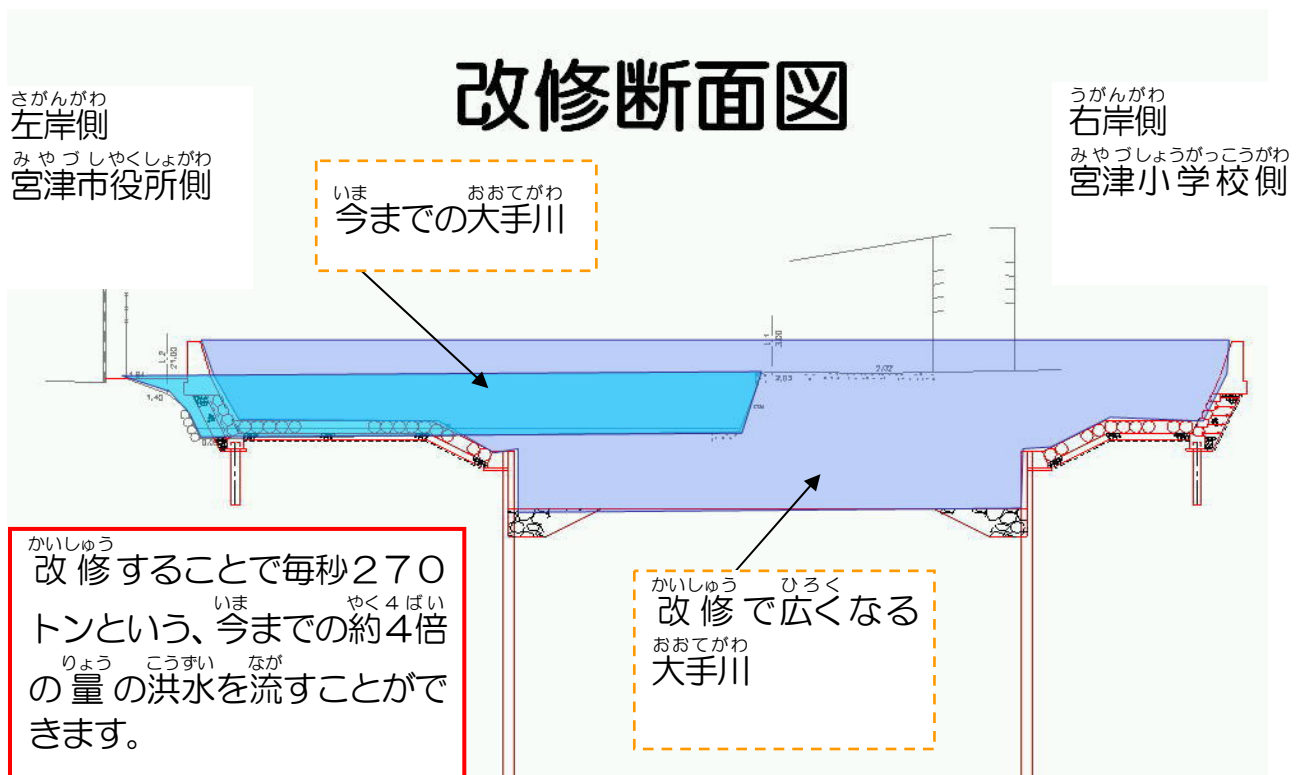
大手川は、流域に多くの家の建ち並ぶ市街地のある河川であることから、30分の1

の降雨確率で改修を行います。(30年で一番の大雨でもあふれない安全な川にすると
いうことです。)

この確率で計算すると、京口橋付近で毎秒270トンの洪水を流せる河川になります。

この水の量は、ちょうど台風23号の時に流れた水の量とほぼ同じになります。

改修断面図



したがって、現在進めている改修工事が終われば、台風23号と同じくらいの大雨が降ってもあふれない、安全な河川に生まれ変わることになります。そのため、できるだけ早く事業が完了することが望まれるのです。

事業を進める上で気を配ること

大手川改修を進める上で、特に気を配ること、それはどのようなことでしょうか？

それは、おおよそ次のようなこととなります。

- 1 大手川は宮津市の中心部を流れる河川であることから、「宮津の歴史と自然を活かした安心で心安らぐ水辺づくり」として、地域に愛される水辺づくりを目指すこと。
- 2 河川の改修を行う上では、治水・利水だけでなく、環境にも気配りすること。

治水とは、水害や土砂災害から人命や財産を守るために護岸やダムなどの施設をつくることをいいます。
利水とは、河川の水を農業用水や都市用水に利用すること。ダムから水を取り入れる、川に堰をつくって水を取り入れるなどがあります。

地域に愛される水辺づくり

地域の人々に愛される水辺づくりを進める上では、どのようなことが大切なのでしょう
か？

それには、まず、どのような水辺にしていくかを地域の人たちと一緒に考えて、その結果を具体的に工事に反映させることが必要だと考えました。

その方法として、「ワークショップ」という仕組みで地域の人々のいろいろな意見を聞いて設計することとしました。



ワークショップの様子



川の模型を作っている様子



できあがった模型

大手川を周辺の地形や利用の形を考^{かんが}えて、大きく下流・中流・上流に分けて考^{かんが}えました。そして、それぞれの場所に適したイメージや形態で検討^{けんとう}をしました。

ワークショップは、あまり回数^{かいすう}を行^{おこな}ってもまとまりが悪^{わる}くなることから、いずれも3回の実施^{じっし}で開^{ひら}きました。

ワークショップとは：さまざまな立場^{たちば}の人々があ^あつ^あき、自由^{じゆう}に意見^{いけん}を出^だし合^あい、互^{たが}いの考^{かんが}えを尊重^{そんちょう}しながら、意見^{いけん}や提案^{ていあん}をまと^あめ^め上げていく場^ばです。

ワークショップでは、まず現地^{げんち}の調査^{ちょうさ}を行^{おこな}い、川^{かわ}の特^{とく}徴^{ちよう}や周辺^{しゅうへん}の状^{じよう}況^{きよう}、どのよう^{りよう}に利用^{りよう}されているかなどを確^{かく}認^{にん}します。次^{つぎ}に、利用^{りよう}や整備^{せいび}に当た^あった課^か題^{だい}や問^{もん}題^{だい}点^{てん}など^{はな}を話^わし合^あいます。

そして、どのよう^{かいけつ}にそれ^{かたち}を解^{りよう}決^{のぞ}するか、どのよう^{はな}な形^あや利用^あが望^{はな}まれるかなどを話^あし合^あい、それをまと^すめ、イメ^すージ^{もけい}図^ぐや模^ぐ型^{たいてき}など^{かたち}で、より具^{のこ}体^{のこ}的^{のこ}に形^{のこ}として残^{のこ}します。

土木事務所^{とほくじむしょ}は、そのワークシ^{けんとう}ョップで検^{けん}討^{とう}してできあ^すが^すったイメ^すージ^{もけい}図^ぐや模^す型^{もけい}を基^き本^{ほん}として、具^ぐ体^{たい}的^{てき}に工^{こう}事^じのた^{こう}め^じの詳^{むす}しい設^{むす}計^{むす}図^{むす}を作^{むす}り、そ^{むす}して、工^{こう}事^じに結^{むす}びつ^{むす}けてい^{むす}く^{むす}ので^{むす}す。

このよう^{とく}な取^{おこな}り組^{おこな}みを行^{おこな}うこ^{おこな}と^{おこな}で、住^{じゅう}民^{みん}に愛^{あい}着^{ちやく}の生^うまれ^{かせん}る河^{せい}川^びとし^{ちか}ての整^{せい}備^びに近^{ちか}づく^{ちか}ので^{ちか}す。いつま^{みな}でも皆^あさん^あに愛^あされ^ある「大^お手^お川^{かわ}」にし^おたいと思^{おも}い^{おも}ます。

ワークショップでの取り組み

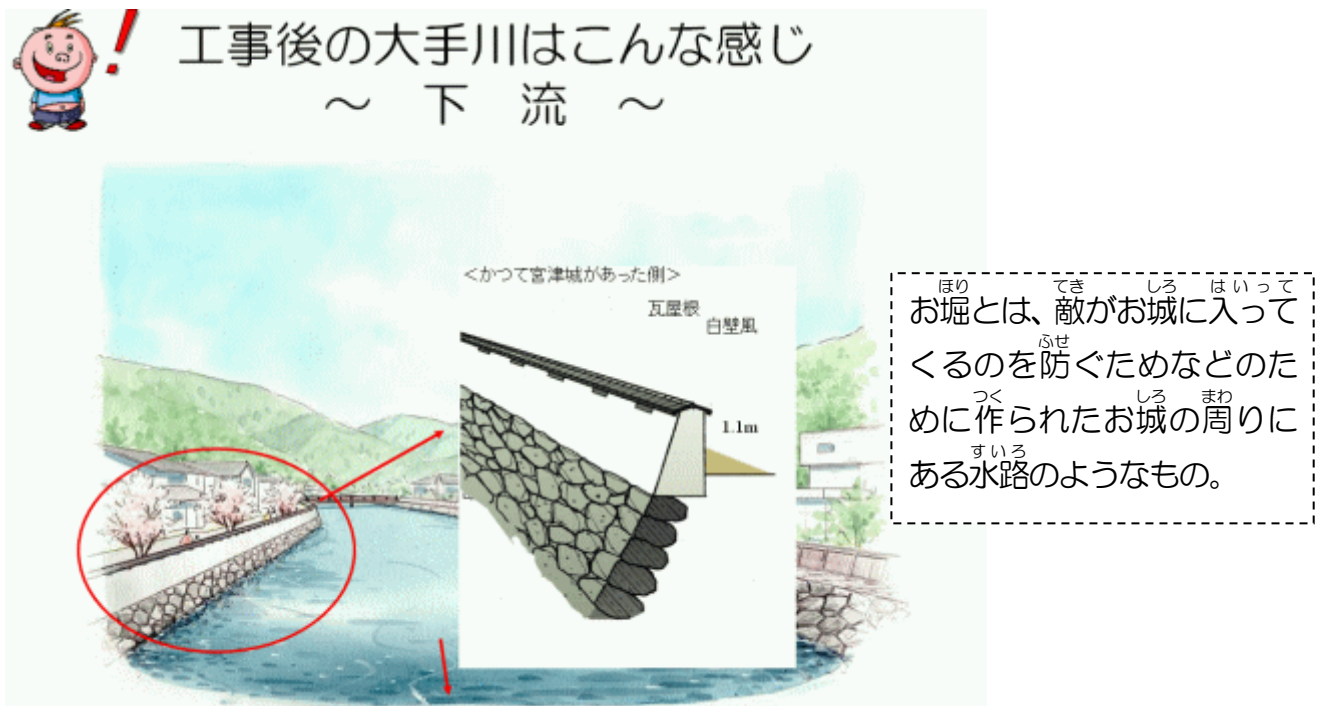
ワークショップ（その1）

下流部では、「**大手川の護岸を考えるワークショップ**」という名前のワークショップを

行い、皆さんで話し合ったことを整備イメージにしてまとめていただきました。

出来上がったのが、下のイメージ図です。

下流部の整備イメージ



下流部では、大手川が宮津城のお堀であったことなどから、上の絵にあるように、右岸側

は白壁が建ち並び、お堀のイメージを出します。ゆっくり散策できるようにします。

ワークショップ（その2）

中流部では「**大手川に『自然と親しむ空間』を作ろう**」ワークショップ」という名前の

ワークショップを行い、曲がりくねった区間の改修によって残る元の河川部分の

有効利用を考えました。

生き物にも配慮した川とふれあえる空間の整備について、皆さんで意見を出し合っていました。

したすみなはなあきちゅうりゅうぶせいびす
 下のイメージ図が、皆さんで話し合っで決めた中流部の整備イメージ図です。

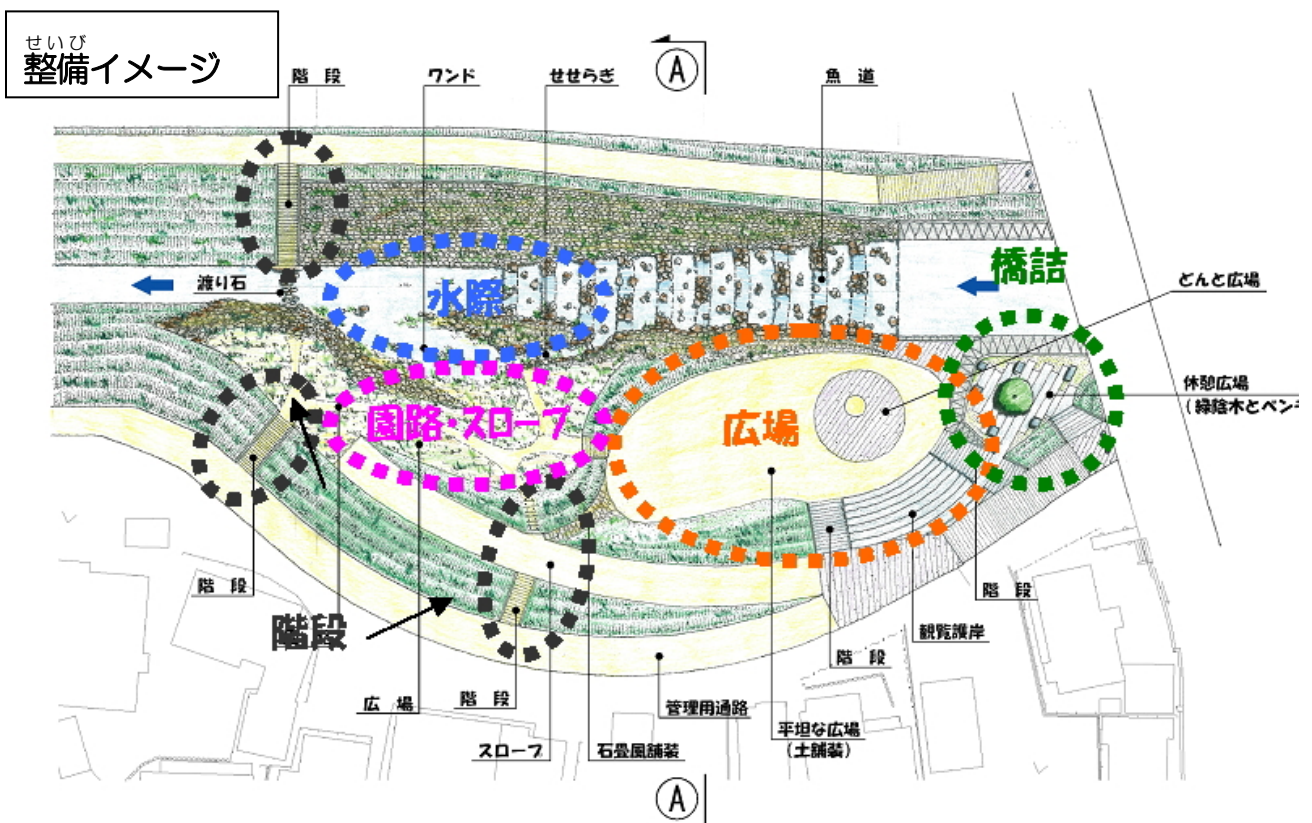
このような形にすることで、魚などの生き物と入れあえる水辺として、みなさんに親
 しんでいただくと考えています。



ながれはやおそ
 流れの速いところ、遅いところが
 でき、変化に富んだ形により、い
 ろいろな生物が棲みやすくなります。
 しぜんかんさつなどに適した場所になる
 と考えられます。

ワークショップ (その3)

じょうりゅうぶかみやつちく
 上流部 (上宮津地区) では、「**おおてがわはぐくむかわ** 大手川『みんなで育む! 川づくり』ワークショップ」とい
 う名前のワークショップを行い、「地域で創り、育てる川づくり」を目標に、川に親し
 める空間整備を考えました。



かんきょう きくば 環境への気配り

かんきょう きくば ひと こうすい たい あんぜん
環境へ気配りということでは、人が洪水に対して安全であればよいかということでは
なく、さかな などにもやさしい川でなければということです。

また、けいかん (すぐれたけしきのこと) にもきくば されていなければなりません。

そもそもかせん じんこうてき であってはいけないのです。ゆたかな しぜん かんきょう まも
守ることは

たいへんたいせつ 大切なことなのです。さかな かく ばしょ かくほ ぶく せ ぶち ひつよう
魚の隠れ場所の確保も含めて、瀬や淵が必要です。

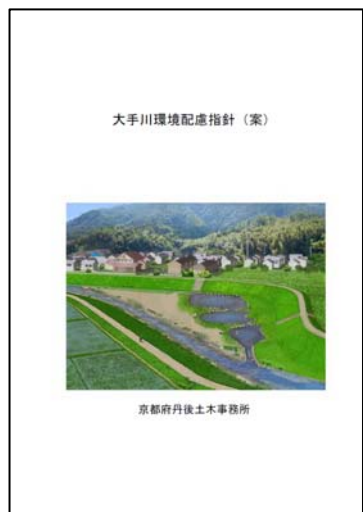
また、けいかんてき うつく のぞ
景観的にも美しいことが望めます。



せとは、つち た が溜まってあさ
くなっているところ、
図の赤い線のところです。
ふち かわ みすあ ぶか
淵とは、川の水当たりなどで、深くな
っているところ、
図の黄色の線のところ
です。
ふち さかな とり がいてき のが
淵では魚が鳥などの外敵から逃れた
り、また、せいちよう ば
成長の場となります。

おおてがわかいしゅう じつげん おおてがわかんきょうはいりよしん あん
大手川改修では、これらを実現するため、「大手川環境配慮指針(案)」というもの

さくせい けいかく た こうじ おこな うえ きくば さだ
を作成し、計画を立てる、工事を行う上で気配りすべきことなどを定めています。



おおてがわかんきょうはいりよしん あん
「大手川環境配慮指針(案)」
うつくしいかわ つく まも のこ
美しい川として、作り、守り残していくためには、
けいかく ひつよう かんが
しっかりした計画が必要と考えました。
こうじ すす いじ かんり おな
どのように工事を進め、どのように維持管理(同じ
じょうたい たもちつづけ まも のこ
状態を保ち続け、守り残すこと)していくべきかなど
をき
決めていきます。
こうじ ひと み
工事する人にも見てもらっています。
たんごどほくじむしょ み
丹後土木事務所ホームページで見ることができます。

大手川に棲む魚たち

大手川には、たくさんの種類の魚などが棲んでいますので見ておきましょう。

工事をするときには、生態系のことを考えて、これらの魚などが棲みやすいような形で

護岸などを作ることが必要となります。

河口の近くに棲むカニ・ヒトデ



モクスガニ

生まれてから4～5年は川で大きくなり、卵を産むために秋から冬は海に下ります。ハサミの長い毛は脱皮直後は白髪になります。



ケフサイソガニ

日本各地の内湾の川のそばで、石の多いところでみられます。オスのハサミにやわらかい毛が生えています。



キヒトデ

ヒトデまたはマヒトデともいいます。日本近海の浅い海や港の中で最も多く見られる種類です。

河口に棲む魚



ウグイ

日本各地の川の上流から下流に広く見られます。卵を産む時期、3本の赤い縦じまがみられます。川底のコケ、水中の虫などなんでも食べます。



マハゼ

日本各地の湾内や河口の砂泥上にみられます。寿命は1～2年です。大食いでなんでも食べるので釣りやすい魚です。汚い水に強く、都市の港でも見られます。



ヒイラギ

背中のトゲがヒイラギの葉に似ていることから、この名がつけました。アゴを“ギギ”とならすことから、宮津ではギチまたはギギと呼ばれています。体は又ルヌルした粘液を持っています。



ボラ
にっぽんかくち わんない かこう み
 日本各地の湾内や河口に見られます。
 大きさと名前が変わる出世魚で、関西ではハク、オボコ、スバシリ、イナ、ボラ、トドと大きくなります。
かわそこ
 川底のコケなどを食べます。

アミメハギ
にっぽんかくち しげるば いわば
 日本各地の茂場や岩場にみられます。
おお
 大きくなっても6~7cmと小さいです。
よる かいそう
 夜は海草などをくわえて流されないように寝ます。

クサフグ
ないそう かわ どく も
 内蔵や皮などに毒を持ちます。
すな もぐ め だ
 砂に潜って目だけを出している姿を見ます。
すかた み
 6月の新月と満月、波打ち際で集団で産卵します。

おおてがわ
 大手川には、この他にもコイ、メダカ、セシジボラ、ウキゴリ、ゴクラクハゼ、ヌマチ

チブ、アイナメ、ネズミゴチ、ナマズなど、たくさんの種類の魚がいます。

府民参画の取り組み

たんごどほくじむしょ
 丹後土木事務所では、より良いまちづくりを進めるために、積極的な情報発信や

ふみんさんかく と く すす
 府民参画の取り組みを進めています。

おおてがわかいしゅう せっきょくてき じょうほうはっしん ふみんさんかく と く すす
 大手川改修でも積極的に情報発信と府民参画の取り組みを進めています。

ひとびと かわ さんかく ふみんまんぞく え
 いろいろな人々が川づくりに参画していただくことで、より府民満足が得られるわけ

です。そのためには、いろいろな情報をできるだけ発信して知っていただくこと、そして、

ひとびと さんか しく たいせつ
 たくさんの人々が参加しやすい仕組みが大切です。

おおてがわ かいしゅう
 それでは、大手川で改修では、どのようなことをしているのでしょうか？

さんかく みな おも ふせい はんえい かたち あらわ
 参画とは、皆さんの思いをより府政に反映させる（形になって表れる）こと
さんか すこ い み
 です。参加とは少し意味がちがいます。

じょうほう はっしん ていきょう
情報の発信・提供

おおてがわ はっこう
大手川だよりの発行

これは、毎月20日に発行しています。地元^{じもと}に配る紙印刷^{かみいんさつ}（A4版^{ばん}両面印刷^{りょうめんいんさつ}）のもの
と、丹後土木事務所^{たんごどぼくじむしょ}ホームページ^{こうかい}で公開^{こうかい}しているホームページ^{ばん}版^{しゅるい}の2種類^{つと}を作っています。
特にホームページ^{ばん}版^{かみいんさつ}では、紙印刷^{かみいんさつ}のものより、さらにビジュアル^{めみわ}（目で見て分かりやす
いよう）にしています。川^{かわ}に関する専門^{かん}的な言葉^{せんもんてき}の説明^{ことば}やその時々^{せつめい}の話題^{ときどき}など、毎回^{わだい}、
担当者^{まいかい}が知恵^{ちえ}をしばって作成^{さくせい}しています。是非^{せひ}、見て下さいね^{みくだ}。



おおてがわ かみいんさつばん
大手川だより紙印刷版です。
これをじもとくば
これを地元^{じもと}に配^{くば}っています。

けいじぶつ くふう
掲示物などの工夫

工事現場^{こうじげんば}に近く^{ちか}に、いろいろな情報^{じょうほう}を提供^{ていきょう}しています。
改修^{かいしゅう}のイメージ図^す、工事^{こうじ}の流れ^{なが}、大手川^{おおてがわ}にいる魚^{さかな}の写真^{しゃしん}と説明^{せつめい}など、少しでも大手川^{すこ}
の特徴^{とくちょう}や改修工事^{かいしゅうこうじ}について理解^{りかい}していただく取り組み^{とく}をしています。



おおてがわ すいぞくかん おおてがわ す
大手川プチ水族館^{すいぞくかん}として、大手川^{おおてがわ}に棲む
魚^{さかな}などを工事用^{こうじよう}のフェンス^{さかな}にプリント

たくさんの取り組み^{とく}がありますので、具体的^{ぐたいてき}にはホームページ^{げんち}や現地^みで見て下さい^{みくだ}。

ふみんさんかく と く 府民参画の取り組み

さきに説明した「ワークショップ」も府民参画の仕組みの一つですが、これ以外にもいろいろな取り組みがあります。

「大手川自然博物館」での展示、「土木フェスタ2007 in たんご」（平成19年11月16日から18日）での展示や出前講座などを行いました。また、小学校の総合学習や河川美化の取り組みなども行っています。

しょうがっこう そうごうがくしゅう 小学校の総合学習

大手川水辺の学校「自然博物館」（平成19年7月17日から7月22日）では、宮津小学校と上宮津小学校4年生の生徒を対象に「勉強会」や「体験学習」を行い、現地での「体験学習」の成果は「公開展示」をして市民の皆様にお知らせしました。



みすべ がっこう がくしゅう
「水辺の学校」での学習



おおてがわ つ たいけん
大手川でのカニ釣り体験



しぜんはくぶつかん こうかいてんじ
「自然博物館」での公開展示



かみみやぶしょうがっこう きょう こうじげんちけんがく
上宮津小学校による橋りょう工事現地見学

かせんび かかつどう
河川美化活動

おおてかわ おおてがわ だいさくせん だい へいせい ねん がつ にち やく めい
大手川では「大手川クリーンアップ大作戦」と題して、平成19年10月28日に約200名

とおお かた さんか いっせいせいそう おこな
という多くの方に参加していただき一斉清掃を行いました。



せいそう ようす
清掃の様子



せいそう まえ
清掃の前



せいそう あと
清掃の後

へいせい ねん たいふう ごうすいがい きおく わす すえなが おおてがわ たい あいちゃく
平成16年の台風23号水害の記憶を忘れることなく、未永く大手川に対する愛着を

ふか おおてがわ うつく まち けいぞく じっし
深めてもらい、大手川をいつまでも美しく守っていくため、継続して実施できることを

きたい
期待しています。

こうじ すす なか たいせつ
工事を進める中での大切なこと

こうじ すす なか けいじぶつ せっち ふみん わ こうじ
工事を進める中で、いろいろな掲示物を設置したりして、府民に分かりやすい工事を

めざ すす りかい おも
目指して進めていることは、おおよそ理解していただけたと思います。

いがい きくぼ なに
それ意外にもいろいろと気配りしていることがあります。それは何でしょうか？

こた ひんしつ かくほ ひんしつ かくほ なに
答えは「品質の確保」です。では、品質の確保とは何でしょうか？

もの つく ひんしつ かくほ もの しょうぶ
よい物を作るということだけではありません。品質の確保は、物が丈夫か、きれいかと

いうだけではなく、あんぜん すす かんきょう きくぼ
いうだけではなく、安全に進められているか、環境に気配りされているかということが

たいせつ
大切です。

たんどほくじむしょ ふみん こうじ かんけい ひと あんぜん じ こ
そのために、丹後土木事務所では府民や工事に関係する人たちが安全であるよう「事故

もくひょう こうじ すす
ゼロ」を目標に工事を進めています。

こうじげんば はたら けんせつ かい 工事現場で働く建設機械

こうじげんば けんせつ かい つか こうじ
工事現場ではいろいろな建設機械を使って工事をします。

おおてかわかいしゅう こうじげんば はたら けんせつ かい み
大手川改修の工事現場で働くいろいろな建設機械を見ておきましょう。



はたら
クレーンとして働く
バックホウ

バックホウ

ゆあつ うご おも つち くっさく しょう
油圧で動くショベルカーです。主に土の掘削などに使用します。

しょう ばあい おな きざい あ おこな
クレーン仕様の場合は、クレーンと同じように器材のつり上げを行うこともできます。



ブルドーザ

つち し なら
土を敷き均しするときなどに使います。

ダンプトラック

つち は こ
土などを運ぶときに使います。

おおてかわかいしゅう こうじ
大手川改修工事では
こうじ くるま
工事の車にエプロン
つ
を付けています。



タイヤローラ

土を締め固めするときなどに使います。

やいたあつにゆうき 矢板圧入機

まわ しんどう えいきょう
周りに振動の影響が
で 出ないように、矢板を
ゆあつ お こ
油圧で押し込むときに
つか
使います。

バキュームカー

す あ
ヘドロを吸い上げると
きなどに使います。

大規模な工事をするとき、このようにたくさんのいろいろな機械を使いますので、やはり安全が第一です。安全には十分注意して進めていきます。

最後に

このように丹後土木事務所では、大手川の改修工事を進める中で、洪水に対して安全に
するだけでなく、府民に積極的に参加していただき、より良い水辺づくりができるよう取り組んでいることを理解していただけたでしょうか？

大手川改修でのいろいろなことを広く情報提供することにより、さらに質の高い
住民サービス、府民満足度の向上につなげていければと考えています。

キッズページも見てください

丹後土木事務所ホームページの「キッズページ」でもいろいろと公開していますので、
そちらも見て下さいね。



防災や公共工事についてなど、いろいろと見て学んでいただけるよう作っています。

たいふう ごう と き しんすい はんい
台風23号の時の浸水の範囲



はっこう へんしゅう
発行・編集

きょうとふたんだんごどほくじむしょ きょうとふたんだんごういきしんこうきょくけんせつぶ
京都府丹後土木事務所（京都府丹後広域振興局建設部）

きょうとふみやつしあざよしわら
〒626-0044 京都府宮津市字吉原2586-2

きょうとふたんだんごういきしんこうきょくみやづちょうしゃ
京都府丹後広域振興局宮津庁舎

でんわ だいひょう
電話（代表） 0772-22-3244 FAX 0772-22-3250

Eメール tanshin-do-tango@pref.kyoto.lg.jp

おおてがわかいしゅう かん と あ さき
大手川改修に関するお問い合わせ先

さいがいたいさくしつ でんわ
災害対策室 電話 0772-22-3243 FAX 0772-22-3250

ホームページ URL <http://www.pref.kyoto.jp/tango/tango-doboku/index.html>